

北川 文夫

## 高島・旭竜エコミュージアムを語る会



### 1. 設立とその背景

岡山市旧市街の北東の旭川、龍ノ口山、百間川に囲まれた高島と旭竜の小学校区は、江戸時代から祇園用水などの用水が整備され、淡水魚の生育環境が意図せず守られてきました。中でも国の天然記念物のアユモドキが息する数少ない地域であり、地域として淡水魚保護に関心をもっています。

また、後楽園用水や百間川の開始地点では、ホタルの保護活動も行っており、毎年ホタルが飛び交う姿を観察することができます。

また、龍ノ口山は国有林を県が借りて県営のグリーンシャワー公園として整備され、ハイキングや動植物の自然観察の場などとして、多くの人たちに親しまれてきました。

これら地域の豊かな自然を地域の子供たちに体験してもらおうということがきっかけで、子供も大人も参加できる組織を高島公民館を中心に結成したのが、高島・旭竜エコミュージアムを語る会です。(詳しくは、<http://kouminkan.city.okayama.jp/takashima/tkecm/index.html>)

#### 北川 文夫氏

1957年生まれ。群馬県出身。岡山理科大学教授。高島・旭竜エコミュージアムを語る会会員。おかやま投稿型古写真データベース作成委員会委員長。(財)おかやま環境ネットワーク評議員。

### 2. 主な活動

活動の拠点は高島公民館で行っており、公民館の職員にも協力していただいています。主な活動は、次のようなものです。

- ・アユモドキの稚魚の個体数調査(岡山淡水魚研究会の保護田で、同会との共催)
- ・ホタル観察会を開催(身近な生きものの里高島・旭竜との共催)
- ・高島公民館の川ガキ講座に協力
- ・地域の農家の人から藁ぞうり作りの伝授
- ・グリーンシャワー公園でのクリスマスリース作り
- ・グリーンシャワー公園を自主管理するグリーンシャワーの森を守る会の発足と運営
- ・百間川の野草を食べる会開催

### 3. 活動紹介

#### 3.1 アユモドキの稚魚調査



岡山淡水魚研究会が賞田地区の休耕田を借りてアユモドキが産卵できる場所を確保しているので、毎年産卵後の稚魚の個体数調査を共同で行っています。

毎年、地元の小中学生から参加者を募り、自分が住んでいる地域の自然が貴重なことを体験を持って知ってもらう機会になっています。

#### 3.2 ホタル観察会



高島地区では祇園用水をはじめとする水路が沢山あり、それぞれの水路でホタルが毎年見られます。中でも後楽園用水では、身近な生きものの里高島・旭竜の会の方々が中心になってホタルの幼虫の保護などを行ってきたので、毎年沢山のホタルが飛び交う姿が見られます。この様子を地元の子供たちに知ってもらおうとホタル観察会を毎年開催しています。

#### 3.3 グリーンシャワーの森



岡山県の財政難のため龍ノ口グリーンシャワー公園は2010年3月末で閉園になりました。しかし、地元の人たちが定常的なパトロールやトイレ清掃、草刈などを行う条件で存続が認められました。「龍ノ口グリーンシャワーの森」という名称になり、守る会が受け皿になっています。写真はリース作りのものです。

(連絡先)

高島公民館(086-275-1341)